

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

8

No.726

特集……P2

認め合い ともにつながり 支え合う
みんなでつくる ひょうごの福祉
～兵庫県社協2015年計画のあらまし～

みんなでつくるひょうごの福祉……P6
兵庫県ご当地グルメ連絡協議会
～グルメをキーワードにまちおこし!～

あなたのまちの社協ナビ……P7
稲美町社協
ひとりぼっちをつくらない地域づくり

地域を駆ける!ワーカー物語……P8
「笑顔をつなげたい」そんな一心で
新温泉町社会福祉協議会
小南 かおるさん

兵庫県からつなぐ被災地支援……P9

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11
みんなの広場

8月30日～9月5日は
“防災週間”だよ!





認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

～兵庫県社協2015年計画のあらまし～

経済的な豊かさや制度・サービスの充実だけが自分らしい生活の実現につながらない。“無縁社会”が明らかにした社会の実相は、このことを改めて浮き彫りにした。それでは今、どのような社会像を展望し、次の一步を踏み出すのか。

兵庫県社協は、目指す社会像を議論し、共有することを県民に広く呼びかける上で、「2015年計画」を策定した。今月は、「2015年計画」のあらましを伝え、県社協会員をはじめとする県民みんなが目指す社会像を考える機会としたい。



「2015年計画」とは

「2015年計画」とは、兵庫県社協の役割と今後5年間の活動方針を定めた県域の地域福祉推進計画である。これまで、県社協では平成13年度から平成22年度までを推進期間とする「2010年計画」に基づき事業を展開してきた。計画最終年が終了するにあたり、次期計画として「2015年計画」を策定した。

前計画と異なるのは、県社協事業を中心とした計画ではなく、県社協を構成する県内の市町村社協、社会福祉施設、民生委員・児童委員、福祉関係団体などがともにすすめる計画にしたこと。「無縁社会をはじめとする社会の大きな問題を乗り越えるためには、まずは目指す社会像を県民みんなで議論・共有することが必要だ」という認識からである。特に、グローバル化を背景に人々の価値観ライフスタイルが多様化しているからこそ、どのような社会を目指すのか、多様化の中の共通ビジョンを議論・共有する必要があると考えた。

また、共通ビジョンの実現は、従来の社会福祉関係者だけでなく、より幅広い団体・個人の参加を得ることが必要であるという認識に立ち、会員を通じて広く県民に参加を呼びかけるとともに、それを可能にする上での県社協の役割を問い直す計画とした。

「2015年計画」策定のねらい

- 1 目指す福祉社会の姿を県民みんなで共有する
- 2 幅広い団体・個人が、県社協と県社協会員の取り組みを通じて、目指す福祉社会づくりに参加し、それぞれの力を結集する
- 3 上記を進める上での県社協の重点的な役割と事業の方向性を明らかにする

目指すは「こんな福祉社会」 ～兵庫県の地域福祉ビジョン～

このたび「2015年計画」が提案する社会像は、図1のような福祉社会である。この社会の実現に向けた全県スローガンが、「認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくるひょうごの福祉」である。これらを提案した大きな背景は

図2のとおりである。今までにないこうした社会の新しい局面を切り切るためには、これまで県内各地で築いてきた地域福祉の実践を基盤にしながらか、あらためて身近な暮らしの場で多様性を「認め合い」「つながり」と「支え合い」を再構築することが求められる。目指す福祉社会像の実現に向けた地域福祉活動・事業のポイントは3点あげられる。

一つ目は、みんなが参加し、力を合わせる。公私の社会福祉関係者と住民・ボランティア活動者が協働するとともに、そこに保健・医療・教育・司法関係者や企業など幅広い団体・個人が加わり、お互いの力を合わせる。不可欠である。そのためにも情報・問題意識の共有と、話し合いの場づくりが重要である。二つ目は、参加を通じて、あらゆる人が「自分らしさ」を追求できるこ

と。そのため多種多様な参加の機会づくりがこれからの地域福祉実践のポイントである。三つ目は、暮らしの場である地域を基盤にすること。暮らしが見え、参加しやすい基礎エリアである小地域福祉活動が福祉社会づくりの第一歩である。福祉・生活課題は地域によって異なることを前提に、画一的でない方法で進めることが基本である。

■図1 兵庫県の地域福祉ビジョン

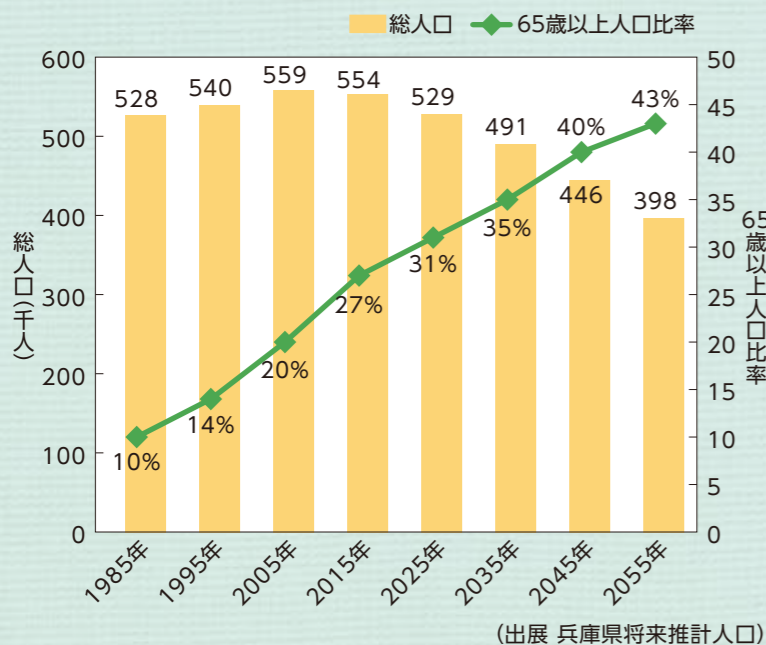
【全県スローガン】 認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

- 一人ひとりの価値観、ライフスタイルなどが多様であることを前提に、多様性を認め合い、お互いがかけがえのない人間として尊厳が守られ、尊重される社会
【尊厳を重んじられる社会】
- 個人として尊重される実感の中から、他者や社会との多様なつながりをつくり、誰もが豊かさを享受できる社会
【多様なつながりのある社会】
- すべての人を包み込み、さまざまな福祉・生活課題を共有し、支え合う力を持った社会
【誰もが包み込まれる社会】

■図2 社会の新しい局面

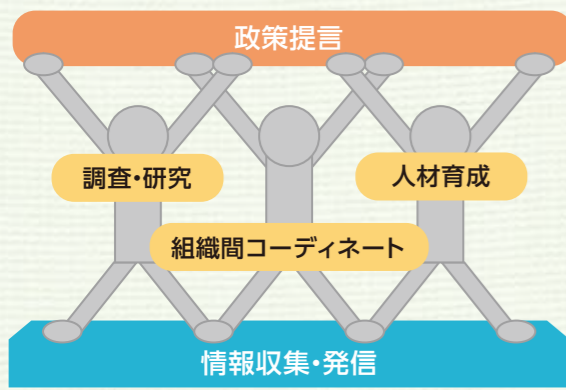
- 本格的な人口減少社会へ：兵庫県総人口もすでに減少へ
- 世帯規模の縮小と単身世帯の増加：20年後3人に1人が高齢者、生涯未婚率が男性の3割、女性の2割強。
- 個人の価値観とライフスタイルの多様化
- 家族・地域社会の共同体としてのありようが大きく変化
- 福祉・生活課題の広がり：貧困・低所得や介護だけでなく、子育てやひきこもり、高齢者や障害者への消費者被害の対応など、福祉課題が特定の人の特定の課題ではなく、誰にでも起こりうる課題へ

兵庫県の総人口推移予測(2005年までは実績値)





■図3 県社協が発揮する5つの役割

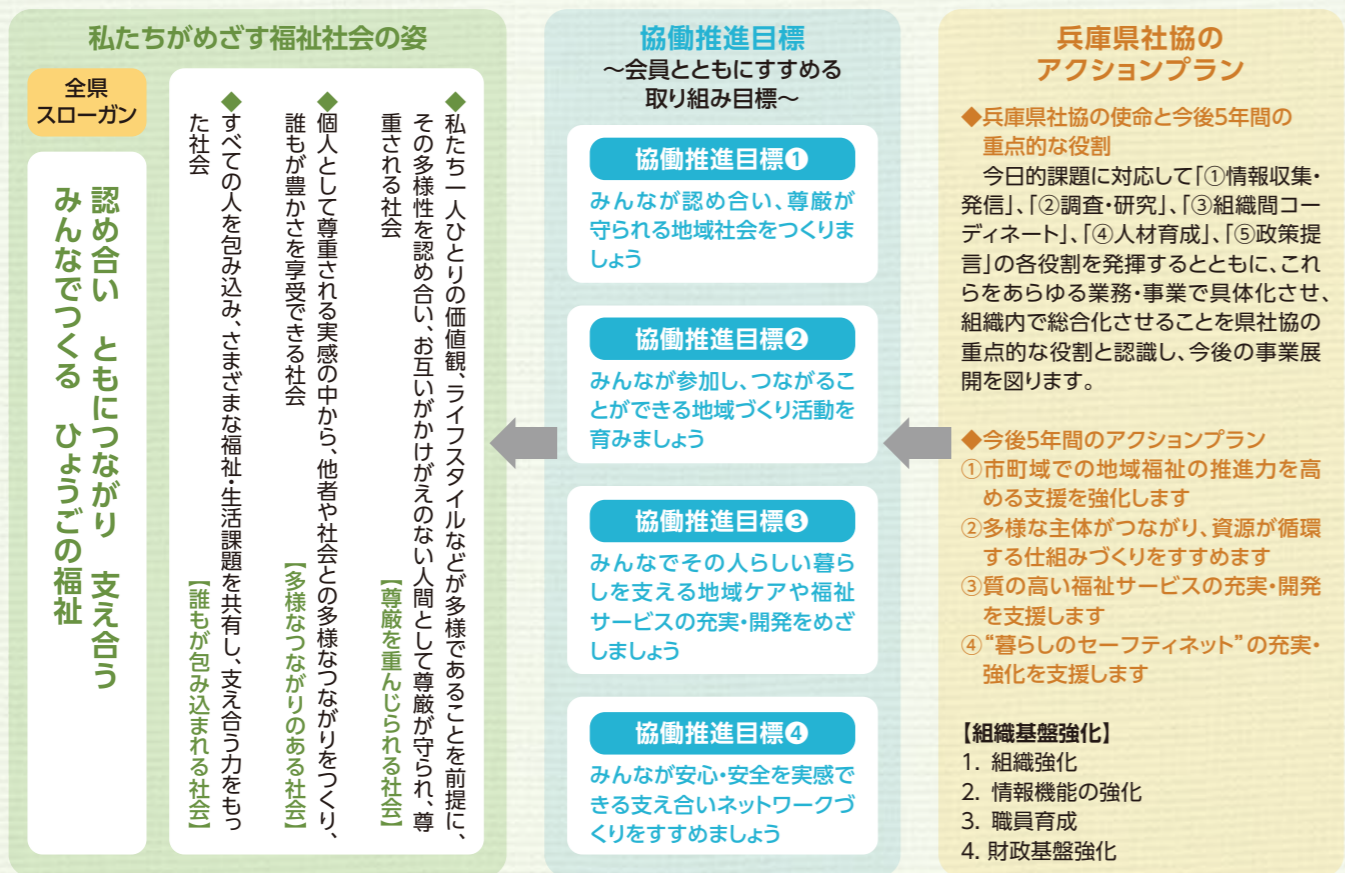


県社協の使命は、「県内の地域福祉をすすめる力を結集し、私たちがめざす福祉社会づくりをすすめること」。社会的孤立や関係性の希薄化が進む社会にあって、会員をはじめとするさまざまな個人・団体の力を県域で結集する使命の発揮はますます重要であり、かつ困難さを伴うものである。だからこそ、「2015年計画」の地域福祉ビジョンを基本に、幅広い個人・団体との議論・共有を進める機会づくりとプロセスづくりをこれまで以上に重視しなければならぬ。また、このために強化する県社協の役割は次の5つである(図3)。特に政策提言は、ほかの4つの役割を通して集めた現場の声を、地域福祉政策として行政機関に届けることができる県域唯一の組織として、一層の強化を図る。

これからの兵庫県社協の役割

県社協事業の方向を提示したものが4つのアクションプランである(図4)。これは、福祉社会を実現するための協働推進目標に基づく取り組みを進める上で、県社協の使命と役割に照らして県社協が担うべき領域として定めた。アクションプランの実現に向けた具体的な年次計画は、現在、各部署で策定を進めるとともに、局内プロジェクトを立ち上げて議論を行っている。「2015年計画」を、絵に描いた餅に終わらせないよう、具体的な活動・事業を明示し、評価・見直しができるものにする。ことが今年度の取り組み課題である。会員をはじめとする県民の理解と参加を得ることが、「認め合い」ともつながり「支え合う」みんなのできる「ひょうごの福祉」を実現するための一歩である。

■図4 「2015年計画」全体体系図



地域福祉ビジョンを実現するために～4つの協働推進目標～

「認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉」のスローガンのもと、福祉社会の実現に向け会員とともに全県で推進する「協働推進目標」は次のとおり。

協働推進目標①

みんなが認め合い、尊厳が守られる地域社会をつくりましょう

- 虐待などの権利侵害からの保護、衣食住などの基本的ニーズ充足という観点での権利擁護の取り組みを、社会福祉・医療・司法関係者などが連携して進めましょう。
- 狭い意味での権利擁護だけでなく、自己実現のためのかかわり・支援という広い意味での権利擁護の観点を地域福祉活動や福祉サービスの中に根付かせましょう。福祉社会の土壌をつくる「福祉学習」や「広報・啓発活動」も大切な活動。



福祉当事者らの自身体験ステイ(淡路市/ひょうごの福祉NO.714より)

協働推進目標②

みんなが参加し、つながることができる地域づくり活動を育みましょう

- 福祉だけでなく防災や防犯、環境・文化・芸術、コミュニティビジネスなどさまざまなまちづくり活動によって、地域で孤立しやすい福祉当事者の活躍の場をつくり、地域全体を元気にする実践を進めましょう。
- 子どもから高齢者、当事者、ボランティア活動者から勤労者などの「人」、空き教室・店舗、民家などの「拠点」、伝統・文化活動や経済活動など地域の資源を生かし、地域の持ち味を發揮する活動づくりが、人もまちも生き生きと輝く活気ある地域社会へ。



福祉・防災マップづくり(香美町/ひょうごの福祉NO.713より)

協働推進目標③

みんなでその人らしい暮らしを支える地域ケアや福祉サービスの充実・開発をめざしましょう

- 誰もがその人らしく住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、福祉人材の育成をすすめるとともに、地域の支え合い活動など制度内外のさまざまな活動が合わさった支援体制を身近な地域でつくりましょう。
- 特に、社会福祉関係者は、福祉サービスの量的・質的な充実と開発を図るとともに、地域ケアへの当事者、家族、住民の参加を働きかける役割を果たすことが求められます。



施設ボランティア活動から地域をつくる(園田苑/ひょうごの福祉NO.722より)

協働推進目標④

みんなが安心・安全を実感できる支え合いネットワークづくりをすすめましょう

- 暮らしのセーフティネットとして、公の責任を進める社会保障制度の再構築だけではなく、私たちの家族や地域社会内での支え合いネットワークづくりを進めましょう。
- 例えば、見守りネットワークづくりや、平常時にも役立つ災害救援ネットワークづくり、何でも相談窓口の設置など、身近な暮らし場のできることはたくさんあります。



見守りネットワーク(尼崎市/ひょうごの福祉NO.721より)

あなたのまちの社協ナビ 稲美町社協

市町社協の取り組んでいるさまざまな活動を紹介しします。

稲美町社会福祉協議会 ☎079-492-8668 稲美町社協 検索



ひとりぼっちをくぐらない地域づくり

住民の生活課題に対して地域が果たす役割は

人口約3万人の稲美町では、各自治会に1人ずつ福祉委員を置き、小地域福祉活動を進めてきた。しかし、高齢化率の上昇や新興住宅の増加に伴い、自治会への加入率が低下し、地域や人とのつながりが薄れてきている。

こうした、無縁社会にかかわる課題の広がりに対しては、身近な地域で高齢者などを見守る体制づくりを進めることが有効である。しかし、住民からは「地域で助けが必要な人がわからない」という、つながりの希薄さが伺える声も上がっている。問題の背景には、個人情報保護の壁のほか、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員など地域のキーパーソンによる話し合いの場の不足があることが、さまざまなアンケートから明らかになった。

自治会エリアでつながりあう福祉ネットワーク

このような地域の実状を踏まえ、社協は第4次「地域福祉推進計画」を策定した。基本目標には「『ひとりぼっち』をつくらない地域づくり」を掲げ、自治会エリアごとに「福祉ネットワーク」づくりを推進することにした。福祉ネットワークとは、地域住民一人ひとり



ひとりぼっちをつくらないために...住民同士で真剣議論

第4次地域福祉推進計画

計画では、福祉ネットワークの全体的な普及に向け、先駆的に取り組んでいる自治会をモデル指定し、実践事例とすることを考えている。いくつかの自治会では、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員などが話し合う場を設け、ご近所での声かけなどの協力体制が地域ぐるみでネットワーク化されている。

地域の取り組みを大きく広げていくために

稲美町社協では、これまでも地域福祉推進計画を通じて社協の基盤強化、地域・関係機関とのつながりづくりに取り組んできました。今回の第4次地域福祉推進計画では、もう一歩踏み込んで、地域での支え合いを推進する「福祉ネットワーク」を住民や行政等の関係機関と一緒につくりあげたいと思います。

人と人のつながりが希薄化している昨今、この取り組みは容易ではありませんが、地域の方々や社協の役員が自分たちの生活の場・仕事の場をあらためて見つめ直す機会と捉え、全力で取り組んでまいります。



稲美町社会福祉協議会 会長 大路征矢雄

計画を絵に描いた餅に終わらせないためには、このような自治会の取り組み実践を検証し、地域の困りごとを解決する福祉ネットワークを推進することが重要になる。その際、新たな組織を一からつくるのではなく、住民への意識啓発を通じて参画を呼び掛け、既存の自治会の活動を広げることがもう一つの大きなポイントである。

社協が計画に掲げた「ひとりぼっちをつくらない」を合言葉に、地域の活動が大きく広がり、発展するよう、今後の稲美町社協の取り組みに期待したい。

みんなで作るひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

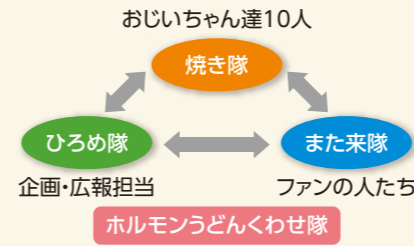


佐用町の「ホルモンうどんくわせ隊」や「新長田TMO(※)」など、兵庫県内13の団体が加盟しているよ。佐用町は10年前から過疎・高齢化・人口減少への取り組みとして、新長田は阪神・淡路大震災から5年目にばっかけによる復興への取り組みとして、情報を共有し、街を元気にしていこうとネットワーク化したものだよ。

※TMO:タウンマネージメントオーガニゼーション

牛ホルモンとうどんを鉄板で焼き、つけだれで食べるのが佐用町の「ホルモン」である。戦後、下町のおばあちゃんが営むホルモン屋は、鉄板一枚をいろんな人々が囲む「コミュニティ」の場となっていた。

「ホルモンうどんくわせ隊」は全国に佐用町の「ホルモン」を発信している。実際にホルモンを焼く「焼き隊」は平均年齢76歳のおじいちゃん達10人だ。もともと料理経験のなかった彼らだが、今年年間三十数回さまざまな所に出向き、ホルモンを焼いている。今年5月のB1グランプリ in 姫路(地区大会)にも出場したおじいちゃん達は、「ホルモン売ってるんやないで。佐用町を売ってるんや」と主張する。「ひろめ隊」の千種さんは、「グルメをキーワード



兵庫県ご当地グルメ連絡協議会

～グルメをキーワードにまちおこし！～



兵庫県ご当地グルメ連絡協議会 会長 千種和英さん

人とのつながりが力を発揮する

東日本大震災直後、千種さんは一昨年の水害の時に励ましてもらった南三陸町の商店街の人たちが気にかかっていた。3月20日、ようやく電話がつながり「お返しに何かさせてね」と話した。

3月23日出発の兵庫県ボランティア先遣隊が宮城県松島町で炊き出しをすることになり、南三陸町ではないが、千種さんは協力を志願。出発まで一日半、豚汁に入れる大量の野菜

ードにしたまちおこしであり、兵庫県にも協力をお願いしたい」と語る。ちなみに「また来隊」の隊長は、井戸敏三兵庫県知事であり、

取材を終えて

津波による甚大な被害を受けた南三陸町では、商店街の方々が率先して地域のお世話をされています。今回、兵庫県ご当地グルメ連絡協議会はネットワークを利用して、「炊き出し」という形で南三陸にお返しことができました。商店街を中心にした日ごろの地域づくりが、災害時に力を発揮することと、ネットワークの大切さ・素晴らしさを実感しました。災害をバネに、商店街パワーでますます町を元気にしてくれるでしょう。

兵庫県ご当地グルメ連絡協議会 ☎0790-82-2305

を準備してくれたのは佐用町の高齢者だった。新長田はカレーを準備、三田のメンバーには現地での調理をお願いした。千種さんはネットワークの力を実感したという。南三陸町で炊き出しを行う4月19日出発の兵庫県ボランティアバスにも参加し、「南三陸町のために何かしたい」という千種さんの思いは叶えられた。

「佐用町も、一昨年の水害からまだ完全には立ち直っていない。地域の人々がいろいろな形で互いに協力し合って、自立できる仕組みをつくっていきなさい」と千種さんは今後の目標を掲げる。

地域を駆ける！
ワーカー物語

「笑顔をつなげたい」そんな一心で

今号は新温泉町社協の小南かおるさんのワーカー物語です。

ワーカーとしての原点は？

中学生のころ、部活帰りに友達と寄り道する場所がありました。学校のボランティア活動で知り合ったひとりが暮らしのおばあちゃんの家です。私たちが行く顔を見てくしゃくしゃにして満面の笑顔で出迎えてくれました。おばあちゃんは何度も同じことを聞いてきます。「お姉ちゃんは何んて名前だ？」「今日は学校で何を勉強してきた？」「おばあちゃんを傷つけないように質問に、繰り返し答えました。そして「また来てな」と笑顔で見送るおばあちゃんに、「また明日も来よう」と心の中でつぶやきながら手を振りました。今思えば、このおばあちゃんのかかわりが、私にとっての人の向き合い方に大きく影響したのではないかと思います。地域で生きるあなたがさを教えてくれたおばあちゃん、笑顔が原点です。

地域福祉を進める中で一番印象に残るエピソードは？

「ふれあいいきいきサロン」の立ち上げにかかり、地域にはいろいろな特技や知恵、思いを持った人がたくさんいることを知りました。地域の集まりがあると聞きつけては出かけ、サロンの説明をしました。ご近所さん同士で寄って、顔を合わせ、言葉を交わすことから始まる地域づくりに、多くの方が共感し、2年で30か所にサロン活動が広がりました。そのころ、「お茶会」だけが目的のサロンでいいのか、支援のあり方に悩みました。でも、多くのサロンとかわる中で、「答えを出すのは私ではなく、地域住民なんだ」と気づきました。私の中の求めるのではなく、地域に合った支援をしていこうと強く思った瞬間でした。



対面やすらぎサロンの皆さんと小南さん

今ホットな活動&力を入れたい活動は？

男性がボランティアや地域活動を始めるときかけとして「男前講座」を開催したところ、20人が参加し、60代前半で退職したばかりのパワフルな、男前たちが、継続的に地域で活動することになりました。約3人に1人が高齢者のわが町でも、さまざまな世代の方が力を出し合えば、社協が目指す「ごさえあう、やすらぎのある町づくり」はきつくと実現すると思います。

また、6月に東日本大震災の被災地域の仮設住宅で、サロン活動の立ち上げ支援をしました。サロン活動は、地域の人と人とのきずなを太く、強くします。そして、力を合わせ、さらなる地域活動のきっかけの場となり、何より地域の方が笑顔で元気になる嬉しい活動です。サロン活動はきつと被災地の新しいコミュニティ形成に役立つと思います。私の町でも地域防災を取り入れた地域福祉推進計画をもって、住民に信頼され

新温泉町社会福祉協議会

こみなみ 小南 かおるさん

Personal History

- 29歳 浜坂町社協(現:新温泉町社協)に入局
- 32歳 町内の「ふれあいいきいきサロン」の立ち上げを支援
- 33歳 新温泉町社協「災害救援マニュアル」の策定を担当する



ワーカーとして大切にしていることは？

「柳に風」。自分をしっかり保ちながら柔軟に対応できるよう、いつも心に置く言葉です。

取材を終えて

地域活動の主役は住民自身。住民の声に寄り添う支援を進める小南さんの姿勢が、地域住民の笑顔を生み出す秘訣だと感じました。

伊丹市社協

市民レベルの支援活動を！ 「被災地支援市民委員会」を設置

伊丹市社協では震災直後に緊急理事会を開催し、事務局をもつ日赤伊丹市地区として義援金募集を決議。市内各地で幅広い団体・ボランティアによる街頭募金が展開され、1億8000万円を超える義援金を送金しました。



岩沼市での被災者宅への訪問ニーズ調査

また、伊丹市が宮城県名取市、岩沼市と結んでいる「災害時相互支援協定」にあわせ、市社協も両市社協との支援協定を締結。協定に基づき、5月20日にボランティアバスを岩沼市に送り出して以降、これまで3回運行しています。今後も仮設住宅支援のボランティアバスを出す予定です。さらに、岩沼市社協へ職員を派遣し、ニーズ調査の応援などに努めています。

今後は、長期的な市民レベルの支援を行うため「被災地支援市民委員会」を設置し、約30の市民組織と両市への支援活動を展開する予定です。現在、第一弾として被災地児童の招待事業や仮設住宅支援を企画しています。(伊丹市社協 小山 達也)

兵庫県からつなぐ被災地支援

兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介し



兵庫県児童養護連絡協議会

気仙沼市内の児童養護施設を訪問

6月18日、19日に県内8施設11名の職員と奈良県内3施設4名の職員で気仙沼市内にある児童養護施設「旭が丘学園」を訪問しました。1日目は地震でゆがんだ倉庫の解体など施設内の環境整備、2日目は津波で流された写真の洗浄作業を行いました。

個を尊重する現代では、集団行動は少なくなりましたが、この施設では日ごろからグループで行動していたこともあり震災時の混乱が少なくすんだようです。

4月には協議会として施設の子も達からのメッセージを付けたお菓子を気仙沼に届けることができ、支援の気持ちが伝えられたことをうれしく思います。

人と人とのつながりの中で互いに支え合いながら生きていることを子ども達にも感じて欲しいと思います。(兵庫県児童養護連絡協議会 吉田 富久子)



思い出の写真を丁寧に洗浄

市民活動センター神戸

兵庫の思いを福島へ！

4月に東北を見て回り、福島県を重点的な支援先に決めました。数度、現地を訪問し、県域で連絡調整役を果たそうとしていた「うつくしまNPOネットワーク」を現地パートナー団体として、6月から職員・藤本高英君を派遣することにしました。

阪神・淡路大震災の経験で、被災者を支援する団体間の情報共有や連絡調整、情報発信が長期的には必ず必要になると思いましたが、短期的にも調整機能の不足が大きなネックとなっていました。片方に膨大な要支援者がいて、もう片方に膨大な支援したい人たちがいるのにうまくつながらないのです。派遣職員は現地でこの役割を担おうとしています。

さらに、福島県には原発問題があり、長期・広域・大量の県外避難や移住の可能性もあります。16年前に大きな悲しみを味わった兵庫だからこそできる支援があるのではないのでしょうか。兵庫の思いをぜひ福島にお願いします。(市民活動センター神戸 実吉 威)



第5回 赤い羽根ひょうごのホームページがリニューアル!～赤い羽根の女の子を見つけてね～

赤い羽根ひょうごのホームページがリニューアル!～赤い羽根の女の子を見つけてね～



「赤い羽根ひょうご」のホームページ画面 URL http://www.akaihane-hyogo.or.jp/

赤い羽根ひょうごのホームページがリニューアル!～赤い羽根の女の子を見つけてね～



赤い羽根ひょうご 検索

赤い羽根ひょうごのホームページがリニューアル!～赤い羽根の女の子を見つけてね～

3部会開催! 政策提言について話し合われる

去る6月27日に「権利擁護部会」「地域福祉推進部会」...

寄付(じつげん)(お礼)

5月25日、県福祉センターにて、(株)トヨタレンタリース兵庫による車椅子の寄贈式が行われた。



台数は延べ181台となった。当日は、同社の齋藤社長が寄贈先の県老人福祉事業協会、県身体障害者支援施設協議会、県知的障害者施設協会へ目録を贈呈。

INFORMATION インフォメーション

第50回社会福祉夏季大学の開催 無縁社会から支え合い社会へ

無縁死、3万2000人、2030年、单身世帯が全体の4割、生涯未婚率3割。NHKスペシャル「無縁社会」が伝えたこれらの実態は大きな反響を呼んだ。

- 日時 2011年9月1日(木) 13:00～16:35
会場 神戸国際会議場 メインホール
参加対象 地域福祉に関心のある方600人
参加費 一人 3,000円
プログラム

Table with 2 columns: 時間 (Time) and 内容 (Content). Rows include: 13:00～13:30 開会あいさつ; 13:30～14:45 記念講演; 15:00～16:30 鼎談; 16:30～16:35 閉会

問い合わせは兵庫県社協総務企画部へ ☎078-242-4633

みんなの広場

障害のある人たちの働く願いを社会につなぐ

特定非営利活動法人 兵庫セルフセンター

兵庫セルフセンターは、「障害のある人たちの働く願いを社会につなぐ」をスローガンに、施設・作業所と行政・企業・一般消費者をつなぐ中間支援役として活動。

アピールしたい活動の情報を教えてください。 お問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633

こんな取り組みをしています

兵庫県からの委託事業として、施設・作業所でつくられた授産製品の販路拡大を目的に、インターネット通販最大手「楽天市場」に、「NUKUMORI 楽天市場店」を、7月15日(金)にオープンしました。

「NUKUMORI 楽天市場店」 http://www.rakuten.co.jp/hyogo-selpshop/



助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

平成23年度県民ボランティア活動助成事業

県民ボランティア活動への主体的な参加促進と裾野拡大を目的として実施します。

対象 県内のボランティアグループ・団体

申請条件 県内市区町村協にボランティアグループとして届を出している5人以上のグループで、23年度に団体構成員以外の人に対する活動を12日以上行い、助成額の2倍以上の対象経費を支出していることなど

助成金額 1グループ上限3万円(事前申し込み数により助成額を決定するため、3万円より減額になる可能性あり)

申請方法 必ずエントリー(事前申し込み)が必要。各市区町村協にあるエントリー書に記入の上、市区町村協に届け出ること

締切り 平成23年8月31日(水)必着

①② ひょうごボランティアプラザ

TEL078-360-8845

URL www.hyogo-vplaza.jp

大和証券福祉財団

第18回「ボランティア活動助成」

ボランティア活動を目的とした団体・グループに助成します。

対象 在宅高齢者、障害児・者、児童問題等に対するボランティア活動団体

助成金額 1団体上限30万円(総額1,500万円)

締切り 平成23年9月15日(木)

①② 公益財団法人 大和証券福祉財団事務局

TEL03-5555-4640

URL http://www.daiwa-grp.jp/

平成23年度大阪ガスグループ福祉財団

「高齢者福祉活動助成」

活力あふれる長寿社会を実現するため、高齢者を対象とする諸活動に対して助成します。

対象 ①高齢者を対象とする地域福祉活動や高齢者の社会参加活動あるいはそれを支援する活動で、都道府県社協(もしくは指定都市社協)の推薦を受けた活動②現場で汗を流して活動されている団体(法人格は問わない)、ボランティア等の先駆的・継続的な活動

助成金額 1件上限20万円(総額1,600万円)

締切り 平成23年8月31日(水)

①② 兵庫県社協 地域福祉部

TEL078-242-4634 もしくは、

公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団

TEL06-6205-4686

URL www.osakagas.co.jp/

募集

神戸YMCA

東日本大震災 被災児童支援制度

東日本大震災によって被災した児童の心身の健康な成長を支援することを目的に、神戸YMCAの日常プログラムや季節プログラムへの参加の費用を助成します。

申請基準 東日本大震災により被災し罹災証明が提出できる方。※罹災証明をお持ちでない場合もまずはご相談ください。

対象 18歳未満の方を対象としたYMCAの社会教育プログラム

助成期間 平成24年12月31日(月)まで

①② 神戸YMCA TEL078-241-7201

かんでんコラボ・アート21 作品募集

障害のある人たちの芸術活動を支援します。

対象 障害があり関西圏在住の個人・グループ(1人、1グループ1点)

募集内容 **A平面作品** 162cm×131cm(100号)以内の、写真・書を除く油彩・水彩・パステル・日本画・水墨画・俳画・CGなど

B立体作品 100cm×100cm×100cm以内、重量20kg以内の陶芸・木工・織物など

締切り 平成23年9月7日(水)

賞など 最優秀賞1作品/賞金5万円
審査員特別賞5作品/賞金3万円

①② かんでんコラボ・アート21事務局

TEL050-7102-2800

第15回ボランティア・スピリット賞

ボランティア活動の表彰・情報の交換・発信の3つの柱で中学生・高校生が行っているボランティア・スピリットを応援します。

応募内容 ボランティア活動に参加して、感じたこと、学んだことなどを応募用紙の項目に沿ってご記入ください。

対象 ボランティア活動をしている個人(12歳以上18歳以下)またはグループ(中学生)

締切り 平成23年9月16日(金)必着

①② ボランティア・スピリット・アワード事務局

TEL03-5501-5364

URL http://www.vspirit.jp/

のじぎく文芸賞作品募集

県民一人ひとりが人権問題について考え、豊かな人権感覚を身につける機会となるよう、人権問題に関する文芸作品を募集します。

募集部門 詩・随想・小説・創作童話(各部門ごとに、一般の部と学齢児童生徒の部があります)

賞など 最優秀賞(兵庫県知事賞)

優秀賞(公財)兵庫県人権啓発協会理事長賞)

佳作(公財)兵庫県人権啓発協会理事長賞)
締切り 平成23年9月20日(火)
 ①② 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係 TEL078-242-5355

研修・イベント

居住支援と見守り支援のあり方

～ケア付き仮設住宅とシルバーハウジングのLSAの実践から～

日常の地域福祉・介護福祉実践の視点から、災害時支援策を考える研修です。

日時 平成23年8月27日(土)10:30～16:45

会場 兵庫県福祉センター203大会議室

定員 70人(先着順)

参加費 1,000円

①② 兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会 TEL06-6797-0266

行事予定

8月 3日 第1回福祉人材センター運営委員会
 ◆兵庫県福祉センター201会議室

3・10日 レクリエーションリーダー養成研修
 ◆神戸市内

5日 県内社協事務局長会議
 ◆県福祉センター

10日 県共募第209回理事会
 ◆県福祉センター

22日 県共募第174回評議員会
 ◆県福祉センター

23日～ 中間指導者・管理者ステップアップセミナー(Aコース)(全4回)
 ◆社会福祉研修所

29日～ 介護支援専門員実務従事者基礎研修◆兵庫医療大学ほか

9月 1日 第50回社会福祉夏季大学
 ◆神戸国際会議場

8・9日 相談面接技術研修・中級(Bコース)
 ◆関西学院大学

12日 介護職員のエンパワメント研修(Aコース)◆県立のじぎく会館

18日～ 介護福祉士受験セミナー受験準備講習会(全3回)◆社会福祉研修所

20・21日 県民生委員・児童委員研修総会
 ◆神戸ポートピアホテル

29日 介護職員のエンパワメント研修(Bコース)◆県立のじぎく会館

大自然に恵まれた情緒あふれる浜坂温泉でゆったりお過ごしください 20名様以上の団体様には無料送迎中!(応相談) ※ただし、下記料金とは異なります



但馬牛しゃぶしゃぶで
平日個人宿泊の場合
(60歳以上のお客様)

1泊 9,500円～



カニファミリーコースで
平日個人宿泊の場合
(11月上旬～)
(60歳以上のお客様)

1泊 10,000円～